

ベストクラス選定理由書

作成者：山中一英 掛川淳一 三浦卓也 百溪拓人

科目名称 小学校授業実践英語演習 I (小学校英語活動プログラム) (担当教員名：TAYLOR MARK SPENCER)	
課程 : 大学院 (修士)	開講学期 : 前期
授業形態 : 演習	授業規模 : 30 人以下
インタビュー対象教員名 TAYLOR MARK SPENCER (実施日時：8月3日(金) 13:10~14:00；実施場所：総合研究棟 3階小会議室)	
インタビュー対象受講者名 植田朗世 (実施日時：8月8日(水) 16:30~17:00；実施場所：兵庫教育大学ハーバーランドキャンパス)	
選定理由 小学校英語活動プログラム対象科目である本授業は、英語を使って、受講者同士あるいは受講者と教員がホットなトピックについてディスカッションしたり、ときに即興劇をしたりしながら、小学校において英語教育活動を展開する力量の獲得が目指される。授業評価での自由記述ならびに教員と受講者へのインタビュー調査から、このねらいを達成するために、教員は細やかな配慮と働きかけを行い、受講者は授業へ積極的に参画している様子がうかがえた。 1. 「コミュニティ」としての授業空間 受講者のなかには、英語を話すことに苦手意識をもっているものもいたにちがいない。しかし、そうした意識も克服されていたのではないかと想像された。このことは、授業評価の自由記述に、「安心して仲間と対話することができました」と記した受講者がいたことからもうかがえた。そこには、教員の繊細な学びの場づくりが寄与していたのではないかと考えられた。教員は、相手の話をきくことを大切にされた授業展開を心掛けるとともに、受講者の英語力の分散を考慮して、英語での会話を助ける様々な資料を用意していた。これに整合するように、受講者もインタビューのなかで、英語をそれほどうまく話すことのできない受講者に対しても、教員は待ってくれると語った。こうした教員の「待つ」姿勢は、受講者の自発的な発言を促進するものであると考えられ、本授業を特徴づける要素の一つとあってよいだろう。また、インタビューのなかで教員は、本授業を「コミュニティ」という言葉で表現した。これも、本授業を象徴するであろう印象的な言葉であった。 2. あたたかさに包まれた授業空間 授業評価では、「学生の思いを大切にされた授業」とか「あたたかい雰囲気でもとてもいい授業」といった自由記述がみられた。先述したような教員の細やかな配慮と働きかけが、受講者にこのような感覚をもたらしたのであろう。また、インタビューのなかで受講者は、あたたかい雰囲気での授業が進み、自然と会話が生まれ、次回の授業も行こうという気持ちになったといった主意の語りをしている。教員の配慮と働きかけに呼応するように、受講者も本授業に積極的に参画していった様子がうかがえた。 教員ならびに受講者にインタビューをしながら、私たちも本授業の雰囲気を味わってみたいという思いを強く抱くこととなった。 以上のことから、本授業を平成 29 年度「ベストクラス」の候補として推薦する。	

